

あくまでも自分史として

# 「岳陽」と共に

第 4 号

発行日  
2023.5.30  
編集・発行  
井上講四／堂本彰夫  
※連絡先  
〒901-2225  
沖縄県宜野湾市  
大謝名3-13-24  
教育協働研究所  
～岳陽舎～  
(井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail:  
gakuyou17@outlook.jp

○何でなのだ！思わぬ悲？報に驚かされる！

過日のゴールデンウィークに、最後のゼミ卒業生であったT君とO君が、久しぶりに我が家（岳陽舎）を訪ねてきてくれた。昨年の、私の誕生日には（確かそうだったように記憶しているが）、私の「古希」ということで、仲間達と一緒に集まってきてくれたが、相変わらずのコロナ過もあって、その後は、みんなの足も止まっていた！

そんな中の訪問であったが、彼らの生活状況も変わって、一人は、家族と共に離島へ（久米島、一人は逆で、離島（伊平屋島）からの戻り（昨年だったかもしれない？）ということ）、新たな生活を始めているということであった！

さて、ここで言う悲？報とは、他でもない！彼らの先輩でもあるH君が、この3月に、学校を辞めたということであった！せっかくな苦勞して（2度目の受験で合格）手に入れた、小学校教諭のポジションであったのに、しかも、初任研は終わったはずなのに？何で辞めたのであろうか？聞くとところによると、（学校が？）、イメージにそぐわなかったということらしいが、そんなことで（誤解を招く言い方かもしれないが）、彼が辞めるとは思えないのである！！

と言ったのも、彼は、最初は教員ではなく、民間で働くことを選び、それを踏まえて教職につくという計画の下に、3年前に、その念願を果たしていた若者である！仕事の厳しさ（人間関係も含めて！）や学校現場の窮状も、一応社会人として分かっていたはずである！それが、何故…!!

本心に、不可思議でならないが、こちらから連絡するのにも憚られる（迷惑？）ので、一応待つてはいるが、多分音沙汰はないかもしれない!!悲しいと共に、悔しくもある!!

○久しぶりの、孫との対面！蘇った？じーじい心!!

これも、先のGWに、宮崎県にいる長女（小学校教諭が、三男（小3）を連れて里帰り？してくれた。まだまだコロナが気になる場所であったが、ここ数年、帰沖出来なかつたこともあり、思い切つての決断であった！家に、二人の息子（双子の中3生）と旦那（同じく小学校教諭）を置いての旅でもあつたわけであるが、少しは、日常の忙しさから解放されたであろうか（持病の片頭痛や鼻炎に、少し悩まされていたようではあるが！）？

あいにく天気の方は今一つであつたが（ほとんど曇り）、母親（我が奥さん）のお陰で、家事もほとんどせずに、そして、何よりも仕事のことを忘れて、三男と一緒に、楽しく遊び、時を過ごせたのが良かったのではない（心の中では気にかかっていたかもしれないが！）！それはともかく、私にとつては、久しぶりの、孫とのご対面であつたし（偶に、ズームで顔は見ていたが！）、自分でも不思議なくらいに、「じーじい心」が蘇つたようにも思えた!!双子の兄達とは6歳の違いがあり、今が可愛い？盛りなのかかもしれないが、もうすっかり忘れていた（埃をかぶっていた？）、「箱入り娘」というパズルでは、二人夢中になり、仲良く遊べた！

ここで書き（残し）たいことは、沢山あるが、一つだけ挙げれば、その三男の横顔や後ろ姿、そして、何より、その仕草が、兄達（とりわけ長男？）にそっくりであったことである！兄弟なので、似ているのは当然かもしれないが（ちなみに、正面顔は似ていない？）、あの頃の思い出も、そこには重なつていたのかもしれない!!

○やはり、「この」は書いておかなければいけない!!

改めて、今（こ）で、「この」を書くのは、正直言つてかなり憚れるが（その後の経緯からすれば、同じ辛い闘病？でも、私の場合は軽微で？、他人に告げるには、どこか恥ずかしくもあり、申し訳なくも思う？いわゆる手術や抗○○剤治療がなかったということである！）、一応は、自分史の一環として、ここで書き記しておく必要はあるであろう!!とにかく、それが、私の、その後の10年間余りの現役生活、とりわけ大学での仕事振りに、大いに関わっていることは、まさに事実だからである！

ということ、ここでは、その病魔についてと云うよりは（これについては、いつかまた書き記す時もあるが）、宣告を受けた直後の行動、それ以降の意識のあり様を、自らの備忘録として、ここに書き残して置きたい？そういうことである!!

思い返せば、本当に突然であつた！ある年の人間ドックにおいて、結果を知らせる予期せぬ電話が入り、その病魔のことを知らされたわけであるが（後から分かつたが、かなり進行していて、命の心配もあつた？）、これには、本当に狼狽した！直後の大学での授業では、訳の分からないことを口走つてもいたらしい!!

その後、御多分に漏れず、「何故自分が？」という思いに苛まれ、眠っている時以外は、「自分は、○○患者なのだ！」という意識が頭から離れず、かなりの期間、重く、憂鬱な日々を送つていた（周囲には、事あるごとに、同情を賣おうとしていた？）！しかし、今は、その○○患者だという意識は、不遜にも？まつたなく、新たに付き合うことになつた糖尿病に、それなりに悩まされてはいるが（年に4回の血液検査で一喜一憂している？）、こんな悠長な？思い出話をしている次第でもある！

ともかく、これについては、家族をはじめ（とりわけ我が奥さんには、本当に世話になつた！）、多くのみなさんに心配と迷惑をかけた！ただ、思うに、初めて検査依頼をしたチェック項目で（その年からの、追加オプションであつた！）、幸いにも見つかつたということは、その意味では、これもまた、かの守護（背景）霊のおかげであつたと言えるのかもしれない（本心に、もう少し遅かつたら、それこそ、今の私はなかつたであろう？）!!（井上）

○そこにあるのは哀愁？それとも挽歌？！

改めて、目の前にいた（と思っていた？）貴重な若者達の戦線離脱！先のF君もそうであるが、T青少年の家の、若い（と言っても30過ぎの！）職員（K君/N君もその場を去っている！やはり、そこが、自分の居場所！活躍の場？）ではなかったということであろうか？！

しかし、それは、当該の世界（分野）での貢献（やりがい？）に向かっていた（はずの？）自分を、ある意味放棄することでもある（だから戦線離脱？）！それが、たとえかの「自分探し」の一環であったとしても、誠にもったいなく（数も少ないので！）、I氏の驚愕、否、落胆ぶりはおそらく、そこにあつたということである？！

もちろん、自らのより良い人生を求めてのそれであれば、私（達）のような、一線を退いた者（否、赤の他人？）が、とやかく言うことはないし、そもそもそのような権利もない（余計なお世話？）！ただ、振り返れば、これまでも、そうした若者達の離脱？はあつた！だから、I氏にとつては、とても残念であり、複雑なのでもある！

途中からゼミを離れた者、挙句の果てには、大学（院）まで辞めてしまった者、あるいは、卒業後はまったく音沙汰のない者！それはそれで仕方がないのであるが（それが当然と）、とにかく、I氏は、心のどこかで、彼らに對しては、自分は何の役にも立てなかつた？！そう思つてきたのである（だから、悔しくも、悲しいのである！）！

ということ、今回も、I氏は、彼らの、本当の理解者・相談者にはなれなかつた（青少年の家では「相談役」を名乗っているにも拘らず！）！そういうことでもある？！  
ただし、ひよつとしたら、相談したくても、ことがことだけに、それが出来なかつた？！若者達との出会いやつき合いに、自らのやりがい（使命？）を投じてきた（と思つている？）I氏に對して、一方の彼らは、彼らなりの分別（苦しみ？）をもつて、己の身を処したのかもしれない？！そこに、哀愁？いや挽歌が流れているとも言える？！

〈短歌に託して生きていればこそ、様々な思い〉

・何故に辞める！そしてせめて その前に

何故に訪ねぬ！それが悲し（悔し）

・忘れていた？ じーじい心情

されど末の孫が 思い出させてくれた！

・すっかり忘れし あの頃のこと

が、病魔は 別の形で 我を悩ます？

・今なら分かる？ 思いとは裏腹に

それが故の苦しみが あることが！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕④

○もう一つの頭痛の種？「鴨氏（族）」も熊襲なのか？

前号最後で、頭痛の種がもう一つ出てきた？と書いたが、実は、それは、「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」のことである！彼らが、（記紀に言）大和建国（3世紀後半）に、直接関わっていることは分かっているが（神武一行を無事に大和に先導した八咫鳥（タカ）こと「建角身（たけつのみ）命」は、鴨族の統領とされる？）、その「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」は、大和（葛城）はもちろんであるが、吉備、出雲、筑紫をはじめ、全国至るところに、その名を見させているのである！

そして、かの京都には、その「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」が関わる「下鴨神社」「上賀茂神社」もある！前者は、「加茂御祖（みむら）神社」とも呼ばれ、建角身命が、娘「玉依姫」と一緒に祭神となつている神社であるが、その「建角身命」は、何と、「襲（か）の国の出身である」と書いてあるもののである（山城国風土記（逸文）。ちなみに、後者は、「玉依姫」の子「加茂別雷（かみわかづ）神」が祭神とされている（これは、おそらく「秦氏」との関係による？）！いづれにしても、このように、「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」

（族）は、重要ではあるが、その解明には、果てしない混迷が待ち受けているのである？！つまり、もしそうであれば、かの、神武による東征（大和建国）が、「熊襲」によるものともなる？！しかも、その「熊襲」は、北部九州の動向とも関係がある？！

しかるに、私は、その「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」の「武角身命（八咫鳥）」自体が、「神武」のモデル（タミ）？なのではないかと密かに思つていたのであるが、彼らが、改めて、その「熊襲」だということになれば、古代史の解明は、かなり根底から見直されなければならない？！そういうことにもなるのである？！

ということ、改めて、「木（紀）姫（木）氏（族）」や「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」が九州王朝に関わり、他方の「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」が大和建国に関わっている？！一体、これは、どういうことになるのだ？！私の頭の中は、こんがらがらるばかりなのである？！

ちなみに、その、「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」が関わる？「神武東征」であるが、その痕跡は、かの大和・葛城に大いに残されている！いわゆる葛城山麓（現在の御所市周辺）の地名や神社名がそうである（高鴨・葛木御歳・鴨都波神社等。阿治須岐高日子根命／迎毛大御神・葛城鴨族・事代主勢力？。間違いなく、この地域は、一方の三輪山山麓の諸族（三輪／大神（おみ）氏／大物主？／崇神勢力？）と共に、絶対に、大和建国に関わっている？！

また、吉備の加茂地区（例の「楠築（くす）遺跡」の近く！）には、藤井耕一郎氏が明らかにされている（『タケミカツチの正体』河出書房新社、前方後方墳／手焙形土器（火の祭祀用）？ 勢力の出発地と目される「加茂西遺跡」（現初期の手焙形土器がそこで発見されている！）がある！であれば、「吉備」を経由したという「神武一行」は、その鴨（賀茂／加茂）氏（族）のものではないのか？！興味（疑問の連鎖）は尽きないが、これから先は、また次号にて！

※先号で、…3世紀末の「邪馬臺（台）国女王卑弥呼」…と書いたが、…2世紀末…の間違いである！…了解を願いたい。（堂本）  
〈編集後記〉今回もまた、いろんなことを書いてはみたが、やはり気になるのは、若者達のことである？！可能な限り？人生を健気に生きて欲しい！ただ、それだけである！（井上／堂本）